

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回飯塚市地域福祉推進協議会
開催日時	令和4年5月20日(金)14:00～15:30
開催場所	飯塚市役所 1階多目的ホール
出席委員	15名(小賀委員、伊佐委員、浅田委員、阿波委員、大塚委員、吉良委員、坂本委員、櫻木委員、白瀧委員、高岡委員、長谷部委員、松原委員、安永委員、渡邊委員)
欠席委員	3名(岡松委員、友松委員、山田委員)
市職員	森山課長、松本課長補佐、平田係長、山田
委託業者	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所(立場側、井戸)
会議内容	<p>1 開会 会長あいさつ</p> <p>2 議題 (1)市民アンケートについて 事務局より資料1を用いて説明</p> <p>[委員] 問13について、ごみの集積場の問題に悩んでいる人がいるのではないかと。また、集積所があっても散乱することもある。その点を追加してもらえないだろうか。また、地域の交流する場である公民館が、コロナ禍で使用できなくなり、高齢者の集う場所が減少している点も選択肢に入れていただきたい。</p> <p>[会長] まず、ごみに関する選択肢の追加について、表現は事務局に任せる。</p> <p>[事務局] ごみ問題については、適切な設問に配置したい。</p>

[会長]

そのようにお願いしたい。もう一点の交流する場ということについては、表現を変えるか、それとも高齢者というように特定した方がいいのか。

[委員]

高齢者という言葉は入れて欲しい。

[会長]

高齢者という言葉を入れるということだが、問 13 の 8 か、あるいはその別の問にするか。事務局はどう考えるか。

[事務局]

この問題については、コロナ禍に限定したことではないということでもよろしいか。コロナ禍による影響での課題ということであれば、問 9 に地域における交流機会の減少という選択肢がある。ここに組み込むというのも一つの方法かと思う。

[委員]

そう思う。公民館がコロナの影響で使用できないことを問題だと感じているので、問 9 に入れ込んでもらいたい。

[会長]

問 9 に、高齢者の集う機会が大きく減少していることなどという表現で、一つ項目を追加していただいとということでもよろしいか。

[委員]

問 13 についてだが、自分は「その他」を選択した。そもそも、地域のことを分かっている。地域自体のことを自身がわかっていないのに、どうにかしなければならないことを聞かれてもどうかと感じる。

[事務局]

問 13 は、「何とかしなければいけない」問題は何かという問いではなくて、例えば先ほど指摘されたような、問題があり、その解決方法などがなかなかはっきりせず、その問題が積み残された状態になっているとそういう状態を知るための、設問だと考えている。

[委員]

民生委員として答えれば理解できたが、そうでなければ漠然としていると思う。

[事務局]

地域に何が不足しているかといった問だと考えている。

[会長]

そうであれば、それをストレートな表現にしたほうがよいと思う。もう一度問の立て方を検討してほしい。地域の中にこんな問題があるということを明らかにしたいという意図を明確にした表現にしてもらいたい。

[委員]

「なんとかしないといけない」のニュアンスが変わるとわかりやすい。「困っていることはないか」ということでもよいのではないか。

[会長]

「なんとかしないといけない」という聞き方では、地域に対して強い興味関心を持ち、問題意識を持っている人を対象にしているような印象がある。そうじゃない人にとっては、答え難いものになってしまう。

[委員]

若い子育て世代は職場を気にするが、地域のことはあまり気にしていない。なんとかしなければいけないことは答えにくい。

[会長]

事務局で再度、検討してもらいたい。

[事務局]

「地域でのお困り事と感じていること」というような書き方で修正させていただきたい。書き方については検討するが、スケジュールの都合上、事務局に一任していただけると非常に助かる。

[会長]

それでは、私と事務局に一任ということでよいか。事務局が原案を作成し、私がそれを確認して、決定させていただくということでよろしいか。

(異議なし)

[委員]

14 ページ、問 32 の設問文について、インパクトが強いのではないか。もう少し言葉の表現を考えたほうがよいのではないか。出所した人をどうして面倒を見なければいけないのかという印象を持ってしまう。選択肢3「少年院からの出所や認知症・障がいのある人の出所」という文言についても、少し検討してもらいたい。認知症も障がいの一種であるため、少年院という言葉から離れたほうがよいのではないか。少年院からなぜ認知症が出たのか、と思われかねない。

[会長]

ご指摘の通りかと思う。選択肢 3 については、盛り込みすぎと感じる。「社会的に弱い立場にある人が出所したとき」というような形で一つにまとめたほうが良いかも知れない。

問 32 については、社会的支援を必要としている人たちが、何らかの形で罪を犯して出所し、更生をしていくという取り組みの中では、行政はもちろんとして、地域社会の人たちの理解だとか、何らかの手助けが必要だっていう、そんな観点から入っているのだと思う。

「刑務所や少年院を出た人」と直接的に書いているということについては、アンケートには市民への教育、啓発という意義がある。刑期を終えた方、少年院を出た人、そういう方々がまた犯罪に手を染めないように社会環境を整えていくことが地域福祉の課題でもあるので、明確な文言にしたほうが良いのではないかと。

問 32 についても、文言の削除を含めて、文章表現の仕方を改めて検討してもらいたい。

[事務局]

削除も含めて記載の方法を検討したい。出所した全員を対象とするのか、個人的属性を含めた形で聞くのか、検討したい。

[委員]

問 32 の選択肢の 3 番の件だが、私の理解として少年院の出所いうところで改行して、次の選択肢として、日常障がいのある人・・・というように理解した。ということ踏まえて述べると、認知症と障がいのある人という記述ではなくて、高齢者及び障がいのある人というふうに書いた方が良いのではないかと。理由は、地域定着支援センターという出所者の社会復帰支援施設があり、その対象に入ってくるのが高齢であったり障がいがある上に、刑務所を出所後に社会復帰が難しい方々が地域で生活していくことができることを支えるというサービスを提供している。福岡県にもあり、そのことを指してというふう理解するのであれば、認知症という書き方も高齢で障がいがあるがゆえに、社会復帰の仕方というふうに書かれたら、文言は残せるのではないかと。あと先ほど会長の方からも意見があったように、調査自体に市民啓発的な意味を持つというふうにするならば、地域定着支援センターとかそういう部分を知ってるか知らないかは抜きにして、福祉領域として住民に知ってほしい内容・事柄があるということはあるので、できれば残していただきたい。

[会長]

対象を明確にするという指摘である。指摘の通り、文言を削らずに、明確な文章で修正してもらいたい。

[委員]

問 32 の選択肢 6 について、「一般住民」という言葉の使い方は、いかがなものかと思

う。また、問 30 の選択肢 8 について、そうしたことを肯定させてしまう危険性があるのではないか。

[会長]

ご指摘の通り「一般住民」というような文言では、確かにそこで線引きをしている感じが強い。住民として当たり前の方ができるよう、というように表現を変えてもらいたい。

問 30 の選択肢 8 については、貧困を自己責任だと考える住民がどれくらいいるのかを把握するのは意味があり、必要だと考える。

[委員]

問 15-1 について、一つのことが複数に跨っており、選択肢が選びづらい。

[事務局]

例えば、選択肢の文言を高齢者に関する活動、青少年に関する活動、防災防犯に関する活動というようにして、分野が多少わかるような記載にしたいと考える。ごみ拾いであれば環境に関する活動、老人クラブだったら高齢者に関する活動など、そういう形にちょっと改めさせてもらいたい。

[会長]

今回ご指摘いただいた文章表現、問の整理の仕方については、事務局に任せて、私が確認するということをお願いしたい。

[委員]

問 29 について「自立支援法」を知っていますかと聞いているのに、後の問に関連することが続いていないように思うが、いかがか。生活困窮者自立支援法と障がい者自立支援法のことが混在していないか。

[会長]

障がい領域の計画については、その分野で取り組みが行われており、これは障害者自立支援法とは関係なく、生活困窮者のための自立支援のことを指していると考え。設問の文章に注の目印が入っており、誤解を与えるようなものになっている。そうならないように修正してもらいたい。

今回ご指摘いただいた点について、改めて文章を整理しなおして、事務局と私とで、確認をさせていただくということによろしいか。異議が無いようなので、そのように決めさせていただきたいと思う。

(2) 団体ヒアリング先について

事務局より資料 2 を用いて説明

[委員]

ヤクルトやグリーンコープを外しているが、見守り活動をしている企業には調査しないのか。

[事務局]

前回に引き続きこの 2 つに行くのか、それともその他のところがいいのかというところで、事務局でも判断が付かなかった。多くの団体と連携をも果たしているから、対象から外す方向でちょっと前回説明していたが、この点については、改めて検討してもらいたいと考えている。

[委員]

含めた方がいいのではないか。

[会長]

この点については、例えば、前回計画を見直す際に聞き取りを行ったが、特にこの地域福祉の取り組みに何らかの形で反映できるような感じではなかったなど、そうしたことがあれば特に行く必要ないと考える。

[事務局]

特にそうしたことはない。今回もこの 2 社を調査対象としたい。

[委員]

老人クラブはあるが、婦人会は対象としないのか。

[会長]

前回入っていなかったため、そのまま入っていないという状況だったかと思う。飯塚市の全体をカバーする形で婦人会が構成されているのか。

[事務局]

飯塚市全体の婦人会として活動している。婦人会にもヒアリングを行いたい。

[会長]

前回、フードバンクのチラシを頂いたが、そこも対象としたほうがよいと思う。これは安永委員のところだったと思うが、いかがか。

[委員]

大丈夫だ。

[会長]

第 3 期の計画のヒアリング団体としては、資料に追加で、婦人会と、人権ネットいい

づか、企業からは、ヤクルトとグリーンコープこの 4 つを対象としていくということとした  
い。

(3) 団体ヒアリングシートについて  
事務局より資料 3 を用いて説明

[委員]

飯塚市ボランティア協議会は、飯塚市が合併して、それまでの各地区の組織が集約  
され、結成されたものとなっている。そのため、ボランティア連絡協議会としては、それ  
ぞれの地区でできることを行っており、ボランティア連絡協議会全体としては、ざっくり  
したことしか答えられない。それぞれの地区から話を聞いたほうが、よりわかると思う。

[会長]

ボランティア協議会が、一堂に会する会議等の際に、事務局が参加し、そこで全体  
に聞き取りをするということは可能か。

[事務局]

この資料は事前の調査票となっており、前回と同じ形でヒアリングを行おうと考えてい  
る。前回、17 団体を三つのグループに分けて、インタビューのテーマを定めて、ヒアリン  
グを行った。各団体一名の出席ということではなく、前回もボランティア協議会からは 3  
名の出席となっている。なので、例えば支部の代表の方に出ていただくような形でお願  
いできればと考えている。

[委員]

まず、そうした話を支部のほうに諮る必要がある。

[委員]

団体ヒアリングのスケジュールはどうなっているのか。各団体で集まって協議する時  
間欲しいと考える。

[委員]

組織的に地区の話を聞こうとすると、大きな手間がかかる。時間も必要となってくる。

[会長]

スケジュールの調整も含めて、どのような形でヒアリングするのかということを、事務局  
から個別に連絡するというにしてもらいたい。

[委員]

飯塚市障害者団体協議会は、各分野で活動する団体で構成されている。そのため、

	<p>同じようにそれぞれの方たちと一緒にヒアリングしていただく方がいいのではないかと考える。事務局の方と相談させていただきたい。</p> <p>[会長]      そのようにお願いしたい。事務局の人材にも限りがあると思うので、できることはできる、できないことはできないと明確にしたほうがよい。そのなかで、最大限によい計画を作っていくようにしたい。事務能力以上のことをしようとすると、計画自体が倒れてしまう。要望されることだけではなく、事務局からも積極的にこのようにしたいと言ってもらいたい。</p> <p>(4)その他      意見なし</p> <p>[事務局]      次回の会議までのスケジュール      ・6月中に発送2か月ほどで回収、分析      ・団体ヒアリングはまず事前調査票配布、何団体か集めてヒアリング実施。      行政の取り組み進捗報告も。      ・次回会議については会長と協議。8、9月に開催予定。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会次第</li> <li>・資料1・2に関する修正内容</li> <li>・資料1 飯塚市地域福祉に関するアンケート調査票(案)</li> <li>・資料2 団体ヒアリング先(案)</li> <li>・資料3 団体ヒアリング調査票(案)</li> </ul>
<p>公開・非公開 の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 公開    2 一部公開    3 非公開      (傍聴者 1名)</p>
<p>その他</p>	